

移植される世界、交雑する地域
——「21世紀の『国家』像」プロジェクト総括——

日時:2010年4月24日(土) 14時00分 ~ 17時30分

場所:稲盛財団記念館大会議室(3階・333号室)

趣 旨

20世紀は、近代化や開発に関するヨーロッパ起源のさまざまな考え方が世界各地に移植され多くの地域社会で部分的・選択的に受容される一方、それにもとづいた国家建設や社会発展が、地域固有の事情のため、地域ごとに大きな多様性を示した時代だった。20世紀末にはグローバル化の名のもとに「世界のヨーロッパ化」の試みがさらに加速されたが、むしろグローバル化対ナショナリズムという議論を招くに至った。この議論の根底にあるのは普遍主義と個別主義の二項対立である。21世紀の世界ではこの二項対立を乗り越えた「国家」のあり方が問われることになる。「21世紀の『国家』像」と題した本プロジェクトでは、世界の規範と地元の論理との交雑のプロセスをヨーロッパ、東南アジア、ラテンアメリカにおける事例研究および比較研究を通じて検討してきた。その結果、二項対立を乗り越えて「国家」を相対化する試みが、世界各地で萌芽的に研究アイデアとしても具体的な事例としても見られるという理解を得るに至った。このシンポジウムではその内容を披露し、他地域・他分野の研究者による批判を受けて議論の妥当性を検討し

プログラム

- 14:00-14:05 開 会
林 行夫(京都大学地域研究統合情報センター(CIAS) センター長)
- 14:05-14:15 趣旨説明
- 14:15-14:45 移動・国境管理から見る交渉実践が構築する国家
—EU、ロシア、エストニア
報告者:小森 宏美(CIAS)(複合ユニット名:リージョナリズムの歴史制度論的比較)
- 14:45-15:15 熱帯雨林の資源管理—ヨーロッパの介入からみた東南アジアとアマゾン
報告者:柳澤 雅之(CIAS)・Wil de Jong(CIAS)
(複合ユニット名:自然生態資源の利用における地域コミュニティ・制度・国際社会)
- 15:15-15:30 休 憩
- 15:30-16:00 ラテンアメリカにおける国家形成の方向性とアクター
報告者:村上 勇介(CIAS)(複合ユニット名:「民主化」と体制転換の地域間的比較研究)
- 16:00-16:30 コメント
コメンテーター:
酒井 啓子(東京外国語大学総合国際学研究院)
戸田真紀子(京都女子大学現代社会学部)
- 16:30-17:20 総合討論
- 17:20-17:30 新プロジェクト“<地域>を測量(はか)る—21世紀の『地域』像”について
林 行夫(京都大学地域研究統合情報センター(CIAS) センター長)

18:00-20:00

懇 親 会 : 3階中会議室(332号室)

会費:4,000円